

I 平成29年度「基礎・基本」定着状況調査概要

(1) 調査について

(1)	調査目的	◎基礎的・基本的な知識・技能の定着状況とともに、思考力・表現力などの状況を把握する。 ◎児童生徒の生活や学習に関する意識や実態等を把握することを通して、各学校が自校の課題を明確にし、指導内容や指導方法の改善・充実を図る。
(2)	実施日	平成29年6月13日(火) ※実技による調査(英語)は5月15日(月)～6月23日(金)の間で各学校が定めた日程で実施
(3)	対象校	町内全小中学校
(4)	調査対象	小学校・5年生(児童54名) 中学校・2年生(生徒47名)
(5)	調査内容	◎学習指導要領に示されている目標及び内容に基づいた ・教科で身につけておくべき基礎的・基本的な知識等……タイプⅠ ・教科で学習した知識・技能を活用する力等……………タイプⅡ ＜小学校＞ 国語・算数・理科 ＜中学校＞ 国語・数学・理科・英語 ◎児童生徒の生活と学習に関する意識・実態 ＜生活＞ 「毎日朝食を食べています」「将来の夢や目標をもっています」等 ＜学習＞ 「授業では、解決しようとする課題について、たぶんこうではないか、こうすればできるのではないかと予想しています」「ふだん、家では1日何時間くらい勉強していますか」等
(6)	各教科の領域	小学校国語・・・「聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」 小学校算数・・・「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」 小学校理科・・・「物質」「エネルギー」「生命」「地球」 中学校国語・・・「聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」 中学校数学・・・「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」 中学校理科・・・「物理」「化学」「生物」「地学」 中学校英語・・・「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」

(2) 結果一覧

＜小学校＞

国語	全体通過率	タイプ		聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
		Ⅰ	Ⅱ				
町平均通過率	74.5	77.9	59.4	87.4	77.4	57.2	82.3
県平均通過率	68.0	71.5	52.4	83.1	65.6	53.1	77.0
差	6.5	6.4	7.0	4.3	11.8	4.1	5.3
算数	全体通過率	タイプ		数と計算	量と測定	図形	数量関係
		Ⅰ	Ⅱ				
町平均通過率	81.1	84.8	69.4	94.6	77.8	72.3	83.0
県平均通過率	74.3	77.1	65.4	88.4	73.4	63.4	65.8
差	6.8	7.7	4.0	6.2	4.4	8.9	17.2
理科	全体通過率	タイプ		物質	エネルギー	生命	地球
		Ⅰ	Ⅱ				
町平均通過率	69.3	77.2	59.7	54.0	74.3	75.5	73.1
県平均通過率	61.7	70.4	51.0	51.1	61.0	69.6	63.7
差	7.6	6.8	8.7	2.9	13.3	5.9	9.4

＜中学校＞

国語	全体通過率		聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特長に関する事項
	タイプⅠ	タイプⅡ				
町平均通過率	74.7	74.4	75.0	70.6	76.2	74.9
県平均通過率	69.2	70.4	72.4	58.1	71.1	73.8
差	5.5	4.0	2.6	12.5	5.1	1.1
数学	全体通過率		数と式	図形	関数	資料の活用
	タイプⅠ	タイプⅡ				
町平均通過率	69.3	74.5	78.3	71.4	78.6	56.0
県平均通過率	66.9	69.7	72.9	68.1	65.1	60.5
差	2.4	4.8	5.4	3.3	13.5	▲4.5
理科	全体通過率		物理	化学	生物	地学
	タイプⅠ	タイプⅡ				
町平均通過率	69.0	74.0	77.6	56.2	79.5	62.9
県平均通過率	50.8	54.5	66.4	36.5	65.7	34.7
差	18.2	19.5	11.2	19.7	13.8	28.2
英語	全体通過率		聞くこと	読むこと	書くこと	話すこと
	タイプⅠ	タイプⅡ				
町平均通過率	77.1	78.9	77.8	81.9	75.8	81.0
県平均通過率	72.4	74.7	73.0	76.8	73.8	75.6
差	4.7	4.2	4.8	5.1	2.0	5.4

(3) 結果概説

＜教科＞

- ・ 教科においては、全ての教科においてタイプⅠの平均通過率が70%を超えていることから、基礎的・基本的事項については概ね定着しているといえる。タイプⅡにおいては、中学校数学のみ、県平均通過率を下回った。
- ・ 領域別に県と比較すると、中学校数学「資料の活用」において、県の平均通過率を下回っている。

＜生活・学習＞

○小学校

- ・ 生活習慣、学習習慣・学習意欲に係る質問の12問中10問において、90%以上の児童が肯定的に回答している。
- ・ 主体的な学びにつながる「課題発見・解決学習」に係る質問では、15問全ての質問において、約70%以上の児童が肯定的に回答している。
- ・ 地域等の行事への参加が県を大きく上回る傾向は継続しており、「自分の住んでいる地域のことが好きです」という質問への肯定的回答は100%であった。
- ・ 読書活動については、冊数、時間を含め、全ての質問において県平均を上回った。
- ・ 自己実現力・自己効力感については、5問中2問でわずかに県平均を下回った。
- ・ 「テレビ・ゲーム」時間は、平日、休日共に県よりやや少ない傾向にある。
- ・ 家庭学習時間を県平均と比較すると、平日は多い傾向にあるが、休日は少ない傾向にある。休日は1時間未満と回答した児童が約70%であった。

○中学校

- ・ 生活習慣、学習習慣・学習意欲に係る質問では、12問全ての質問において県平均を上回った。
- ・ 主体的な学びにつながる「課題発見・解決学習」に係る質問では、15問全ての質問において、約70%以上の生徒が肯定的に回答している。
- ・ 社会の出来事への関心においても肯定的回答率が高く、特に「自分がすべき仕事や作業は責任をもってする」という質問への肯定的回答は100%であった。
- ・ 読書活動については、冊数、時間共に県平均より高い傾向にあるが、「本を読むのが好き」という質問への肯定的回答は、県平均を7.2%下回った。
- ・ 自己実現力・自己効力感については、5問全ての質問において県平均を上回った。
- ・ 家庭学習時間は、平日、休日共に多い傾向にあるが、休日の「テレビ・ゲーム」時間は県よりやや多い傾向にある。

<今後に向けて>

○今回明らかになった課題について、各学校において児童生徒の誤答分析を通して、つまづきの現状を的確に把握し、授業改善に活かす。特に、教科の本質を的確に捉え、児童生徒の主体的な学びを実現する学習展開の工夫に向けた取組を一層推進する。また、生活・学習に関する調査との関連を分析し、授業改善に活かすと共に、効果的であった指導についても具体を分析し、今後の指導につなげる。